



THE LETTER 宇都宮東教室

第4号 100点満点

発刊日 2025年9月22日

文責 熊澤洋一

どんなに易しいテストでも「100点は100点」。何がすごいって、頭がいいとかではなく、「ミスをしないこと」。もちろん入念な準備があつてこそではあるが、「読み違い、ケアレスミス」の一回くらいはあるだろう、人間なんだから。それを複数枚100点つて…。これまでも100点連発する生徒はいた、今もいる。共通している行動は「制限時間いっぱい何度も見直し、読み直しをしている。」ということ。計算符号、ピリオド、記述問題の文末…など見直し修正は「まあまあの頻度」で見つかるとのこと。答案を書き終えて「待っている」、「一応見直しはした」という生徒との違いは「時間いっぱい見直す」こと。最後の最後は「100点を狙っていく人」との強い気持ちの差。

が、科目によっては時間ギリギリの時もあるので全科目で100点を目指すのではなく、「ミスを防ぐ、見直しをする」つまり最小失点が高得点につながると切り替えていくことも必要。

誤字、脱字、説明での失点、出題單元にもよるが、科目の性質を考えると「100点」を狙えるのはやはり「数学」かと。実際「数学100点」が一番多い。初めから「90点目指し、100点取れたらラッキー」では絶対取れない。「100点を目指す」、という実は日ごろからの心がけが大切。問題を解いたら待つではなく「見直す」、この行動を無意識に行えて初めて「習慣」と言える。言うのは簡単だが、「継続」することが最大の難関であつたりもする。

